

JAMの主張

対話と行動で組合員と向き合う IGメタルからの学びを実行へ

第21回定期大会あいさつ（抜粋） JAM会長 安河内賢弘

機関紙JAM 2019年8月25日発行 第247号

この2年間の最大のミッションは政策実現の取組みでした。JAMの運動は単組の役員の皆様を支えられています。単組役員の皆様が本気になって代弁者として組合員に語り掛けていただかなければ、勝利することはできません。そして、その思いに多くの仲間の皆さんが答えていただき、これまで以上の活動を展開していただいたと考えています。本当にありがとうございました。

しかし、JAMと基幹労連の双方が前回の票数を下回りました。私は「惨敗」ということをベースに総括をしていこうと考えています。私たちJAMの活動が組合員の皆様のところまで響いていません。役員の先にいる組合員まで私たちの声は届いていない。この現実を変えていかなければならない。そのための変革の手法をIGメタルからこの二年間学んで参りました。いよいよ実行に移す時です。IGメタルの改革は何か魔法の様な特別な手法があるわけではありません。対話と行動で愚直に組合員と向き合いながら、運動に巻き込んでいくことが重要だと彼らは教えてくれます。JAMが20周年を迎える今こそ足元の現実を分析し、JAMの原点を見つめ直し、真に単組、組合員のためのJAMとして再び輝きを取り戻すことが求められています。既存の組合員にとって魅力的でなければ、世の中の未組織労働者にとって魅力的であるはずがありません。組織強化と組織拡大は切り離して考えるべき課題ではなく、表裏一体の活動であると理解すべきです。

外国人労働者の問題は深刻です。これは私たちの主戦場である中小製造業の現場で起こっています。様々な困難はありますが、JAMとして連帯の強化を目指して参ります。

来季の春闘ほど難しい春闘はないのではないかと思います。しかし、マクロ経済の観点からは賃上げしかありません。これは日本経済全体の危機をどうやって乗り切るのか、という話であり、政治や社会の問題ですので、連合、JCM、そしてJAMがどれだけ政府与党や経団連に厳しく迫ることができるのが重要です。

いずれに致しましても、20周年を迎え大人になったJAMの最初の活動方針です。変革のスタートの大会にふさわしい活発な議論を心からお願いし、ご挨拶といたします。

共に頑張りましょう！